

化学人材交流フォーラム 2021 閉会挨拶

本日は交流フォーラムに多数ご参加いただき誠にありがとうございました。

発表いただいた 12 名の学生の皆さん、企業からの 3 名の研究者の皆様、座長をお務めいただきました 3 名の皆様、またご講評をいただきました竹内先生、誠にありがとうございました。おかげさまで活発な質疑の下、有意義な交流会になったのではないかと思います



牧野 常務理事
(日本化学工業協会)

博士課程の学生の皆さんにとっては、企業の方との質疑を通して、企業の関心、目指す方向を少しでも理解できたのではないかと思います。企業の皆さんにとっても、最先端の研究の一端を理解する場として、あるいは学生の方の気質、感覚、考え方に対する良い機会ではなかったかと思います。是非、数年後には、今回学生としてご発表いただいた方が、企業の研究者の立場としてまたご発表いただけることを心から祈念しております。

さて、化学産業というのは非常に幅広いバリューチェーンを通じて人々の豊かな生活、衛生的な生活を支えています。有機化学で言いますと、ナフサを出発点として化学品から高機能品、半導体の部材、あるいはエネルギー創出に繋がるような素材、衛生用品、医薬中間体、医療用機器、身の回りのプラスチック、繊維などを提供しており、我々の日常生活と切っても切れないところです。一方で、これらの製品を製造するには、高温・高圧、あるいは極低温など、一定のエネルギーが必要となります。定量的に言えば、ナフサとしては約 3 千万トンが日本の化学分野で使用されています。これは日本全体が消費する石油の約 7% に相当します。また、製造時に使用するエネルギーとしては、CO₂ 換算で約 6 千万トン排出しており、これは日本の排出量の約 5% に相当します。

これからサステイナブルな世界を達成していくためには、あらゆる叡智を集めていかなければなりません。しかし、これを現状の技術だけでやろうとすると非常なコストアップに繋がりますし、また限界もあります。我々化学産業に携わる関係者は、力を合わせてこの問題に立ち向かうべきと考えますが、その基盤となるのは人であり、人材の育成が基本になるものと考えています。

化学人材育成プログラムも 10 年を超え、本交流会も 10 回目を数えることになりました。おかげさまで、この交流会もだいぶ定着してきたと思います。今後ともこういう場を通じまして、学生の皆さんのが充実した研究がますます続くように、また、大学、企業のそれぞれが発展していただけますように、我々事務局としても全力で取り組んで参りたいと思いますので、引き続きご支援をいただければと思います。本日はありがとうございました。